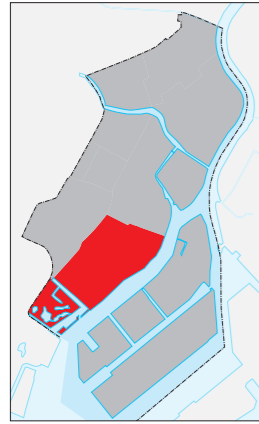


# F

## 築地〜明石エリア 現在の町なみ



### 明石町、築地一〜七丁目、浜離宮庭園

もともと隅田川河口部沿いにあった明石町一帯は、明治時代に外国人居留地があり、外国文化の玄関口になった地区。ここで創立したキリスト教系の学校は数多く、東京で最初にできた教会もある。たくさんの石碑や歴史的な建造物が、今にその面影を伝えている。一方、築地には日本の台所ともよばれる東京都中央卸売市場築地市場と場外市場があり、朝からにぎわう。築地本願寺と浜離宮恩賜庭園もあり、観光客が多く訪れる。



このエリアは赤い部分。

見どころには○印を、重要文化財には★印をつけています。

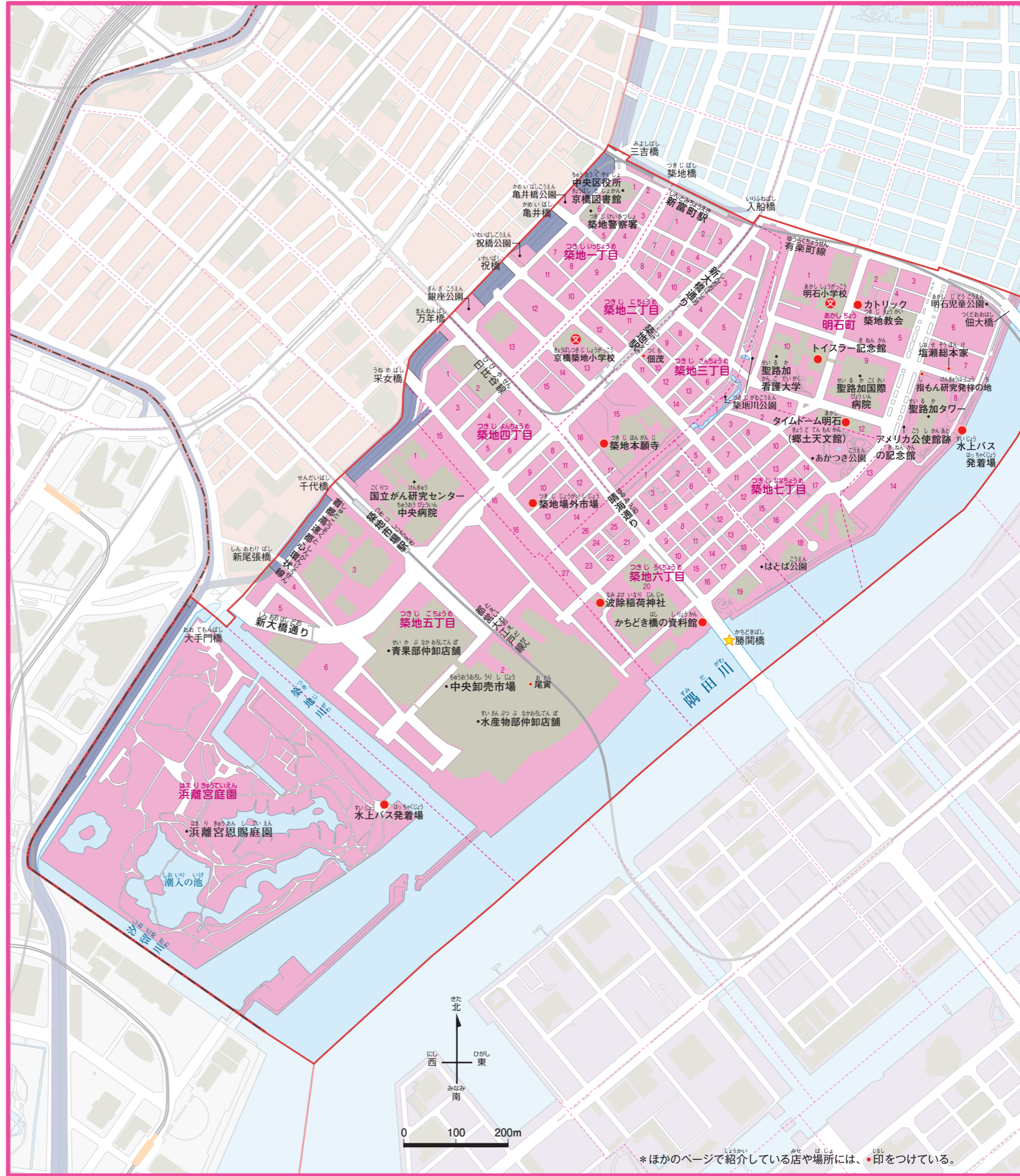


### 築地

築地市場と築地本願寺で知られ、たくさんの買い物客と参拝客でにぎわっている。築地は江戸の大火事、明暦の大火（→p.32）のあとに大川（現・隅田川）河口の右岸の浅瀬を埋め立ててできた土地だ。この辺りは大名や旗本の屋敷が多かったため、町名はつけられておらず、築地とは大川河口部の右岸一帯のことだった。町名になったのは明治時代になってからだ。築地本願寺は、明暦の大火で焼けた横山町の西本願寺が1679（延宝7）年に移転して再建されたもの。市場は、関東大震災で日本橋にあった魚市場が焼失し、築地に移転してきたのがはじまりだ。

### 明石町

明治期にアメリカ人によって創立された聖路加国際病院や聖路加教会、カトリック築地教会がある。記念碑も数多く、外国人居留地の歴史を今に伝えている。明石は、もともと江戸湊（東京湾）沿いにあった小さな町だった。1873（明治6）年に周辺の外国人居留地と合併し、明石町の範囲が広がった。1899（明治32）年に外国人居留地の制度が廃止されると、入船町、新築町、新湊町の一部を合併して、さらに大きな町になった。



\*ほかのページで紹介している店や場所には、●印をつけている。